

過去3年間の授業アンケートの分析について

2010年5月13日

FD委員会副委員長代理 高田 実

授業アンケートは2007年度以来3年間実施した。この3年間のデータを整理すると以下のようなことが明らかとなった。

基本的には、先生方はさまざま努力をしているものの、学生の多様化と学力の格差に十分に対応できていないというのが現状であるようだ。また、もっとも気になるのは学生のなかでの自主学習の時間が少なくなっていることである。講義系科目だけでなく、演習系科目でも低いことには大いに注意が必要だ。学生の現状をどのように把握するか、そのなかで彼らの自主学習を促進するためにどのような方法が有効か、この点について、この1年間、各科目群の担当で検討してもらえれば、幸いである。

【数値分析】

(1) もっとも気になるのは、学生の自主学習の不足である。

授業アンケートの他の項目が基本的に上昇傾向にあるのに対して、自主学習の不足はほとんど改善していない。座学では2.5前後、演習でも3.5程度と低い。これを授業への出席率が4程度で改善していないことと合わせて考えると、学生が授業に向かい合う態度において、問題があることがわかる。学生が興味をもって自主的に学習に取り組むための教員の側での努力が必要となっている。

(2) 教員の側の努力の成果が表れている。

教員の側における教育改善への取り組みは、着実に進展している。教師の側で努力すべき事項については、全体として改善の傾向が見て取れる。特に、教師の熱意については学生の側からも一定の評価を受けている。

(3) さらに改善すべきは基本的な教授方法と学生との対話

教員の側で、さらに改善すべき事項としては、わかりやすい板書・資料の準備、話し方、学生の反応を見た対応などの、教授方法の基本的な項目である。自由記述欄の記述への教員コメントからもこの点が裏付けられている。引き続き、基本項目での改善が必要である。

(4) 学生の理解度、満足度を充実するためのさらなる取組の必要性

学生が授業全体に対して満足しているかどうか、あるいは理解度が向上したかどうかという点では、一定の改善はあるものの、他の項目と比べて、相対的に見ればまだまだ改善の余地がある。上記(1)の点を考慮しつつ、学ぶ喜びを学生が感じるような取り組みが必要であろう。

【自由記述分析】

* 学生の自由記述に対する教員コメントから明らかになる点は以下の点である。

(1) 学生の多様性と学力の幅の拡大に対する対処の必要性

今年の特徴としては、学生の学力格差についてどのように対応してよいか、自問する声、率直な悩みを吐露するコメントが多かった。特に、語学系の授業ではそれが深刻である。学生の実情をリアルに把握しつつ、われわれの対処法を早急に検討する必要がある。

(2) さまざまな自主的な教育改善のための努力

アンケートコメントからは、各先生が学生の理解や興味を拡大するために、さまざまな自主的な授業改善の試みをされていることが分かる。他ゼミ・他大学ゼミとの合同授業、学生の自主的な発表の機会拡大、フィールドワークの実施、ミニツツペーパーの活用、ブログの活用、サブゼミの開催、個別面談の実施、資料の改善、わかりやすい説明のためのさまざまな工夫、学生の自主学習促進の努力、などなどである。今後このような各先生方の取り組みを、相互に交流し、教師が集団として共有していくことが必要だ。FD/SD ニュースや自主的な教育方法の学習会などを通じて、集団的な教育力のアップをはかりたい。

(3) 学生参加型の授業についての努力、学生の要望と高い評価

学生参加型の授業について、ディベート活用、発言機会拡大、グループ学習などの工夫がなされているし、あるいはそれに向けた努力の意識が高まっている。また、学生の側からも、レジュメをたくさん書けたこと、発言する機会が多かったこと、さらに、学生どうしで話す機会が多かったことが高い評価となっている。

【2007～2009年 集計グラフ】

